

## 令和元年度無医地区調査結果について

令和2年11月19日  
医療介護人材課

## 1 要旨

令和2年10月26日付けで厚生労働省から令和元年度無医地区等調査の結果が公表された。全国の無医地区数は前回調査（平成26年度）から減少したものの、本県では前回調査時の54地区から59地区に増加し、北海道に次ぎ全国第2位となっている。

## 「無医地区」の定義

医療機関の無い地域で、当該地区の中心的な場所を起点として、おおむね半径4kmの区域内に50人以上が居住している地区であって、かつ容易に医療機関を利用することができない地区

## 2 調査結果の概要

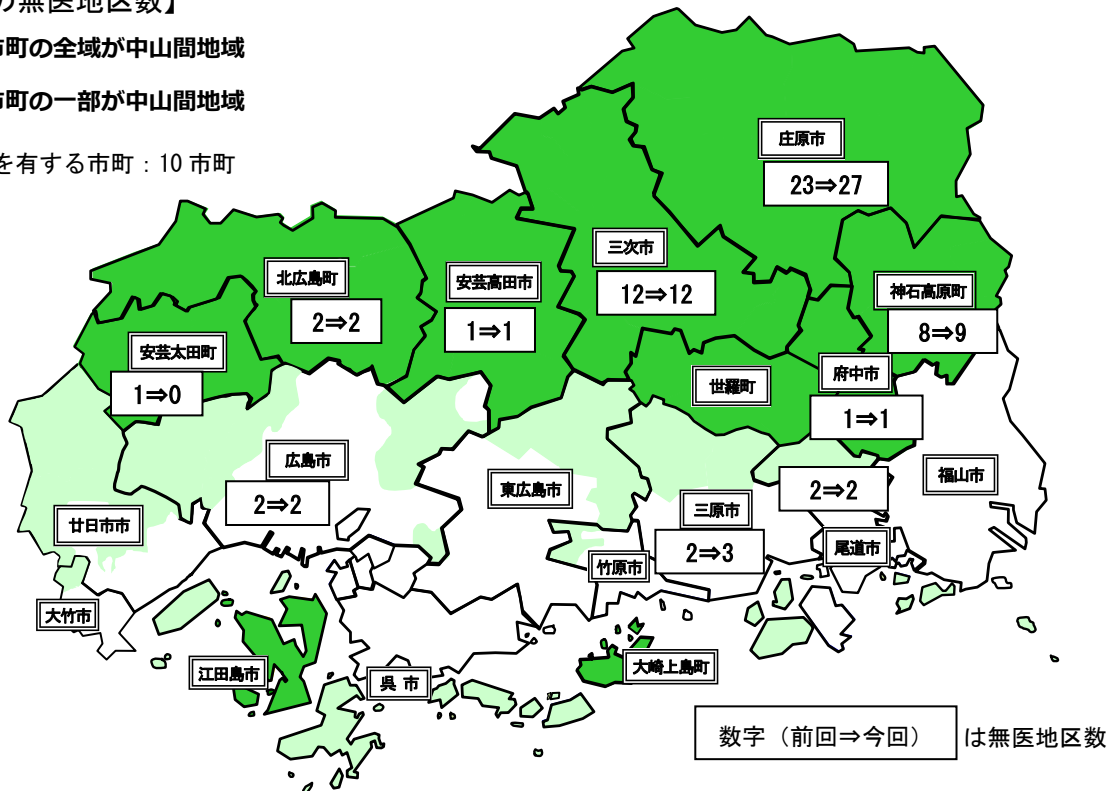
前回（平成26年10月）	今回（令和元年10月）	増減
54地区	59地区	5地区増

## 【市町ごとの無医地区数】

市町の全域が中山間地域

市町の一部が中山間地域

無医地区を有する市町：10市町



## 【全国の無医地区数（令和元年10月末）】（ ）内は平成26年調査からの増減

区分	1	2	3	全国
	北海道	広島県	大分県	
無医地区数	76 (▲13)	59 (+5)	39 (+1)	590 (▲47)

## 3 無医地区数の増減とその主な理由（H26→R1）

理由	交通の利便		人口		医療機関の新設・休廃止		増減計
	向上	悪化	減	増	新設	休廃止	
計	▲1	+3	▲5	0	0	+8	5

## 4 現状及び課題

### (1) 医療機関数の状況

- 前回調査時点と比較すると、診療所については、全国で4番目に多い減少幅となっている。
- 中山間地域の民間開業医や公的診療所においては、高齢化や後継者不足、地域住民の減少等を背景に、医療機関の休廃止による無医地区の更なる増加が危惧される状況となっている。

### (2) 集落の状況

広島県の地理的な特徴として、平野部が少なく、複雑な水系により、なだらかな谷あい集落が形成されていることから、山間部の集落は全国と比較して小規模となっており、それに伴い調査対象地区数が多くなり、無医地区数も多くなっているものと考えられる。

### (3) 交通アクセスの状況

定期交通機関であるバスについては、利用者の減少による減便や、デマンド交通及びタクシー補助など他の交通手段への再編が進んでいることから、無医地区の要件である定期交通機関がない若しくは少ない場合に該当し、結果として無医地区数が増加している。

## 5 今後の対応

- 市町やへき地医療拠点病院等と連携し、巡回診療等のへき地医療対策に加え、オンライン診療やデジタル技術を活用した診療支援の取組を支援し、地理的障壁の解消や高度医療へアクセスできる環境を整備する。
- また、ふるさと卒等地域医療を志す医学生に対して、モチベーションを高めて中山間地域等の勤務が行えるよう卒後も含めた支援を行い、中山間地域の医療を担う医師を計画的に育成する。
- さらに、基幹的なへき地医療拠点病院が地域内の他の中小規模の医療機関への医師派遣や広域的人材育成などを通じた地域の医療機関のネットワークを構築することで、無医地区を含む中山間地域をエリア全体で支える医療提供体制を確保する。

【地区別詳細】

市町 (二次医療圏)	増 加		減 少	
	地区名 (地区内人口)	理 由	地区名 (地区内人口)	理 由
安芸太田町 (広島)			イノシヤマ 猪山 (→準無医地区へ) (68人)	【交通便向上】
三原市 (尾三)	カイテ 垣内【新】 (234人)	【医療機関の休廃止】 八幡診療所：H29. 3. 31 廃止 ○対応状況 公立みつき総合病院, 本多医院への町民 タクシーを週3往復運行		
神石高原町 (福山・府中)	タンドウ キツフ 田頭・木津和【新】 (335人)	【交通の利便の悪化】 バス6往復⇒1往復 ○対応状況 高齢者, 障害者手帳等の交付を受けた 方, 要介護者等へタクシー利用補助		
	アイド 相渡【新】 (201人)	【交通の利便の悪化】 バス4往復⇒0往復 ○対応状況 高齢者, 障害者手帳等の交付を受けた 方, 要介護者等へタクシー利用補助		
三次市 (備北)	テラバラ 寺原 (147人)	【医療機関の休廃止】 君田診療所神之瀬出張所・櫃田出張所： H29. 12. 21 廃止 ○対応状況 君田診療所への往診希望者には個別対 応実施		
	モダ 茂田 (60人)			
			ミツモリ 光守 (→準無医地区へ) (35人)	【人口減】
			ミツネヨ 光清 (→準無医地区へ) (47人)	【人口減】
庄原市 (備北)	ヌガワ ヤマオク 須川・山奥 (83人)	【交通の利便の悪化】 バス4往復⇒2往復		
	オグシ チドリ アワタ 小串・千鳥・粟田 (123人)	【医療機関の休廃止】 内堀診療所：H29. 7. 31 廃止 ○対応状況		
	ウツボリ シオハラ ウチナ 内堀・塩原・内名【新】 (349人)	西城市民病院による巡回診療実施 (内 堀・塩原・内名地区)		
	オヌカ タグロ モリ カダニ 小奴可・田黒・森・加谷【新】 (776人)	【医療機関の休廃止】 小奴可診療所：H29. 7. 31 廃止 ○対応状況 西城市民病院による巡回診療実施		
	ユウオ 高尾【新】 (68人)	【医療機関の休廃止】 赤木内科医院：H27. 2. 28 廃止		
	ヒトトバラ 小鳥原【新】 (129人)	○対応状況 西城市民病院による巡回診療実施		
			ウシロユキ 後油木 (→準無医地区へ) (38人)	【人口減】
		ホンダニ 本谷 (→準無医地区へ) (45人)	【人口減】	
地区数増減	+ 1 1 地区		▲ 6 地区	

## 〔都道府県別無医地区数〕

	都道府県名	平成 26 年調査 無医地区数 (地区)	令和元年調査 無医地区数 (地区)	増減 (地区)	増減比 (%)
		(A)	(B)	(B) - (A)	(B) / (A)
1	北海道	89	76	▲13	85.4
2	青森県	17	13	▲4	76.5
3	岩手県	20	23	3	115.0
4	宮城県	14	9	▲5	64.3
5	秋田県	9	12	3	133.3
6	山形県	0	0	0	-
7	福島県	3	3	0	100.0
8	茨城県	19	18	▲1	94.7
9	栃木県	18	15	▲3	83.3
10	群馬県	6	6	0	100.0
11	埼玉県	0	0	0	-
12	千葉県	0	0	0	-
13	東京都	0	0	0	-
14	神奈川県	0	0	0	-
15	新潟県	20	17	▲3	85.0
16	富山県	10	9	▲1	90.0
17	石川県	9	8	▲1	88.9
18	福井県	9	8	▲1	88.9
19	山梨県	8	7	▲1	87.5
20	長野県	13	9	▲4	69.2
21	岐阜県	5	8	3	160.0
22	静岡県	13	15	2	115.4
23	愛知県	23	16	▲7	69.6
24	三重県	3	2	▲1	66.7
25	滋賀県	3	3	0	100.0
26	京都府	13	11	▲2	84.6
27	大阪府	0	0	0	-
28	兵庫県	9	8	▲1	88.9
29	奈良県	9	9	0	100.0
30	和歌山県	20	15	▲5	75.0
31	鳥取県	3	2	▲1	66.7
32	島根県	21	25	4	119.0
33	岡山県	23	21	▲2	91.3
34	広島県	54	59	5	109.3
35	山口県	7	8	1	114.3
36	徳島県	15	11	▲4	73.3
37	香川県	5	5	0	100.0
38	愛媛県	7	7	0	100.0
39	高知県	38	26	▲12	68.4
40	福岡県	17	16	▲1	94.1
41	佐賀県	0	0	0	-
42	長崎県	0	0	0	-
43	熊本県	20	20	0	100.0
44	大分県	38	39	1	102.6
45	宮崎県	14	13	▲1	92.9
46	鹿児島県	6	12	6	200.0
47	沖縄県	7	6	▲1	85.7
	合計	637	590	▲47	92.6